研究期間
R8～R10

自然を守る行動のきっかけを探そう

～地域の自然を守る行動を引き出す情報提示とその効果～

長野県環境保全研究所 自然環境部

自然を開発から守る「自然保護」から、自然を活かした地域づくりによる「自然再生」へ。
ネイチャーポジティブ（自然再興）実現に向け、**私たち一人一人の行動を促す情報の伝え方**を探ります。

なぜ研究が必要なの？

＜現状と課題＞

- **ネイチャーポジティブ（自然再興）**とは、生物多様性の損失を食い止め回復軌道に乗せることを意味する概念です。
- 「2020年を基準として2030年までに生物多様性の損失を食い止め、2050年までに回復させる」ことが世界的な目標となっています。
- 目標達成のためには、**市民一人一人が自然を守る行動**を起こすことが不可欠です。

＜目的＞

市民が自発的に行動を起こすきっかけとなる情報の伝え方を探ります。

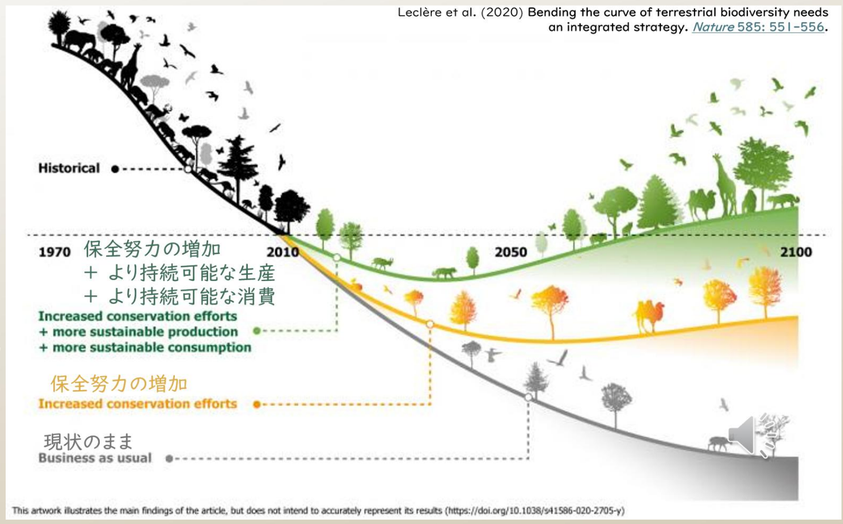


図. ネイチャーポジティブの概念図
保全努力の増加に加え、持続可能な生産や消費にシフトすることが、回復を実現させる鍵となる。

どうやって研究するの？

1．既存の普及啓発事業等の分析

- 県環境部で実施している**自然環境に関する「学び」を深めるための取組が、市民の自然を守る行動をしようという意識を高めることに役立っているか**を確認します。



図. 県環境部で取り組んでいる自然環境に関する学びを深めるための取組事例
環境に関する「学び」の拡大を目指す事業や、オンラインコンテンツを用意している。

2．情報提示手法の探索

- **どのような情報提示手法が、市民の自然を守る行動をしようという意識を高めることにつながるか**を探ります。
- **「話を聞く」「自分ができることを考える」「仲間と話す」「自然と触れ合う」「自然を利用・管理する」などの自然に関する体験が人々の行動変容を促すか**を確認します。



図. 座学型講座での情報提示効果の評価のイメージ

どんなことがわかるの？

- 自然環境に関する「学び」の効果を確認する**評価項目**を作成します。
- 市民が自発的に**行動を起こすきっかけとなる情報の伝え方**をまとめます。

自然を守り、育む暮らしが価値になり、選ばれる社会へ
環境に関する「学び」の効果を高め、**自然とのつながり**を結びなおします。